

令和元年度事業報告(音楽)

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

公益目的事業 3 (顕彰事業)

1. 「第 50 回サントリー音楽賞」「第 18 回佐治敬三賞」(2018 年度) の贈賞

第 50 回サントリー音楽賞の高関 健氏、第 18 回佐治敬三賞の「第三回 伊左治直 個展～南蛮劇場」への贈賞式を 7 月 2 日 (火) 16:00 より東京會館 (東京都千代田区) にて開催し、賞金 700 万円 (サントリー音楽賞)、200 万円 (佐治敬三賞) を贈呈。佐治敬三賞受賞公演の一部曲目が演奏された。引き続き祝賀パーティーを行った。

2. 「第 51 回サントリー音楽賞」の選定、贈賞

ア. 選考過程

- (1) 令和 2 年 1 月 13 日 (月・祝) ANA インターコンチネンタルホテル東京 (東京都港区) に於いて、選考委員 6 名により第 51 回「サントリー音楽賞」の「候補者選考会」を開催した。
- (2) その結果、2019 年にわが国の洋楽の発展に優れた業績をあげた人々として、候補者を選定した。なお、第 19 回よりノミネーの公表はとりやめることにしており、外部には一切公表していない。
- (3) 引き続き 2 月 27 日 (木) アークヒルズクラブ (東京都港区) に於いて、「受賞者選考会」を開催した。選考委員 6 名による慎重かつ白熱した審議の結果、第 51 回サントリー音楽賞に、「**河村尚子氏**」が選定された。
- (4) 3 月 31 日 (火) に開催された理事会において、正式に第 51 回「サントリー音楽賞」は、「**河村尚子氏**」に決定した。

イ. 贈賞理由

いまや優れた日本人ピアニストの名を挙げることは、さして難しいことではない。しかし、河村尚子くらい表情豊かで血の通った音楽を奏でる人がどれくらいいるだろうか。

彼女の演奏は、周到なまでに構築的な設計がなされているのだが、しかしなにより驚くのは、その土台の上で、猫のような敏捷性に支えられた閃きの数々が、次々と生氣に満ちた音楽的瞬間を炸裂させる点にある。どのフレーズも、どのフォルテも、どのクレッシェンドも、はっきりとした意志と感情が込められているから、それを彼女がどう解釈しているのか、どう扱いたいのかが手に取るように分かる。聴き手は、音楽がひとつの運動であることを、「生きている」何ものであることを、その演奏からあらためて知らされることになるだろう。

2019 年の河村尚子は、ベートーヴェン・ピアノソナタ・プロジェクトと銘打った演奏会シリーズを完結させるとともに、RCA から「ベートーヴェン・ソナタ集 1、2」をリリースした。

演奏会の中では、「第 29 番」の弾力性や「第 32 番」の神秘的な幸福感を、CD 録音では「第 18 番」の可憐さや「第 8 番」の変幻自在な解釈などを、その豊かな成果の象徴として挙げる事ができよう。また、新しいレパートリーの開拓という点では、山田和樹指揮 NHK 交響楽団との共演による矢代秋雄「ピアノ協奏曲」において多彩な音色と鋭敏なリズム感を存分に駆使して、作品の再評価にもつながる鮮やかな演奏を展開した。

選考会においては、その演奏の「語る」ような性格を委員全員が認めながらも、ベートーヴェンの後期作品の演奏にはまだ彫琢の余地が残されているのではないか等の議論もあった。しかし近年の目覚ましい充実、そしてさらに大きな飛躍の可能性という点において、最終的には意見の一致を見た。

以上、河村尚子の 2019 年における音楽活動を、第 51 回サントリー音楽賞にふさわしい成果と判断するものである。

- ウ. 選考委員 岡田暁生、片山杜秀、白石美雪、沼野雄司、船木篤也、松平あかね の 6 氏
- エ. 賞金 700 万円
- オ. 贈賞 日程調整中

3. 「第 19 回佐治敬三賞」の選定、贈賞

(1) 選考経過

平成 30 年 10 月 1 日～11 月 30 日および平成 31 年（令和元年）4 月 1 日～5 月 31 日の 2 回の募集期間に、平成 31 年（令和元年）（上期、下期）に実施される音楽公演についての応募を受け付けたところ、43 企画（計 58 公演）についての応募があった。応募公演について選考委員 7 名が分担し公演の視察を行った。

(2) 令和 2 年 2 月 12 日（水）ANA インターコンチネンタルホテル東京（東京都港区）に於いて、第 19 回選考会を開催し、選考委員 7 名による慎重かつ白熱した審議の結果、第 19 回「佐治敬三賞」受賞公演に、「THE 鍵 KEY（ザ キー）」が選定された。

(3) 3 月 31 日（火）に開催された理事会において、上記公演を正式に第 19 回「佐治敬三賞」の受賞公演に決定した。

イ. 贈賞理由・公演概要

<贈賞理由>

谷崎潤一郎の『鍵』を原作にした異形のオペラである。上演場所は劇場のひとつの舞台ではなく、どこかの家の複数の部屋でなければならない。それなりに大きな洋館か日本家屋。その部屋に、歌手やダンサーや器楽奏者が散らばり、同時進行的に演じる。言わば「複室内オペラ」である。観客・聴衆は屋内を自由に移動しつつ鑑賞する。その意味では「遊歩オペラ」である。

そういう作品の形態が、『鍵』の小説としての構造を、音楽劇に転換するのに、よく適っている。なぜなら『鍵』は、主にひとつの家を舞台にして、そこに住み、あるいは出入りする登

場人物の欲望の葛藤を、それぞれが一人称で語り、組み合わせられ、その相反が物語を乱反射させ、混乱させてゆく小説なのだから。同じ時間と空間を共有しながら、登場人物各々は別世界を生き、一本の筋道、ひとつの舞台には、決してのらない。人間の日常でも小説でも劇でも人が食い違うのは全く当たり前だが、それを表現する形式において『鍵』は独創的であり、そこに合う音楽劇の見事なやり方を、『THE 鍵 KEY』は発見している。

作品の初演は、2018年に東京の千住の「仲町の家」で行われた。今回の受賞対象である2019年の公演は、東京の谷中に大正期に建った、彫刻家、平櫛田中の旧邸での再演である。1階のアトリエや茶の間、2階の座敷などが「複室内」を形成した。それがまたよかった。なかなか贅沢な、近代日本の芸術家の空間が、谷崎文学と共振した。観客・聴衆は、遊歩的というよりも探偵的に家を彷徨し、『鍵』らしいスリリングな時空間を味わえた。歌い手の松平敬、工藤あかね、野田千恵子、ダンサーの綾香詳三は、各々の役を十分に勤め上げ、和洋混交の8人の器楽奏者は相応しいアトモスフェアを添えた。身体と響きが互いに呼び交わしては反れる、不可思議な時空間が、平櫛邸に現出した。作曲と演出を兼ねるフランチェスカ・レロイのアイデアは『鍵』の鍵穴に嵌った。

なお、審査会では、作曲に緩さがあり、それ即ち音楽の密度の薄さであって、音楽作品の評価として如何なものかという議論があった。しかし、もしも音楽の吸引力が強く、観客・聴衆が一音も聴き落とせないと一部屋にとどまっては「遊歩オペラ」は成立すまい。『THE 鍵 KEY』では、薄さ・緩さも芸のうちなのであろう。原作と作曲と演出と上演空間と演者の五拍子が揃った稀有な成果と認め、贈賞する。(片山杜秀委員)

<公演概要>

名称：「THE 鍵 KEY (ザ キー)」

日時：2019年5月19日(土) 18:00、25日(土) 14:00、

26日(日) 14:00、18:00 (全4回公演)

会場：旧平櫛田中邸アトリエ (東京都台東区上野桜木)

作曲・演出：フランチェスカ・レロイ

原作：谷崎潤一郎「鍵」1956年出版

出演：バリトン(夫)：松平 敬

ソプラノ(妻)：工藤 あかね

メゾソプラノ(娘)：野田 千恵子

ダンス(木村)：綾香 詳三

尺八：松本 宏平

コントラバス：椎名 有紀子

笙：小島 篤美

チェロ：久保田 佑里

小鼓・締太鼓：小川 実加子

ヴァイオリン：早川きよーじゅ

琵琶：久保田 晶子
クラリネット：三宅 博子
振付：石本 華江
ドラマトゥルク：アレクサンドラ・ルター
照明：植村 真
フライヤー・プログラムデザイン：山下 絵理
企画制作：山下 直弥
主催：「鍵」プロジェクト実行委員会

- ウ. 選考委員 伊藤制子、伊東信宏、片山杜秀、白石美雪、野々村禎彦、船木篤也、水野みか子 の7氏
- エ. 賞金 200 万円
- オ. 贈賞 日程調整中

4. 第29回「芥川也寸志サントリー作曲賞」の選考、決定、贈賞

2018年に初演された新進作曲家の管弦楽作品の中で最も清新かつ豊かな将来性を内包する作品を選定。最終選考はサマーフェスティバル2019の一環として、公開の場で行った。

第29回「芥川也寸志サントリー作曲賞」選考演奏会

8月31日(土) 15:00～ サマーフェスティバルの一環として開催。

第27回受賞記念委嘱の茂木宏文氏作品を初演したのち、候補作品を演奏した。

演奏終了後、3人の選考委員が公開による選考を行って、1曲を選定し、第29回「芥川也寸志サントリー作曲賞」(150万円)を稲森安太己氏作曲の『「擦れ違いから断絶」大アンサンブルのための』に決定、贈賞した。

選考委員は、斉木由美、坂東祐大、南 聡の3氏。選考会司会は伊東信宏氏。

なお、受賞作曲家には新作を委嘱(委嘱料100万円)し、完成後、当財団主催の演奏会で初演する。

公益目的事業4 (助成事業)

1. 推薦コンサート活動

毎月1回、東西で選考会を開き、日本人作曲作品をとりあげたコンサートを推薦していた旧来の推薦コンサート事業は平成30年度で終了し、同年3月に選定され4月に開催された推薦公演へのチケットプレゼントをもって完結した。

第20回佐治敬三賞からあらたにスタートした「佐治敬三賞推薦コンサート」は9～10月に応募のあった令和2年上期に開催される公演企画の中から、第20回佐治敬三賞選考委員がメール会議により、11件を選定。推薦されたコンサートは12月から順次ホームページ告知し、抽

選により各公演 10 名を招待した。なお、新型コロナウイルスのため、年度内開催 9 公演のうち、1 公演中止、2 公演が下期へ延期となった。

2. 楽器貸与事業

ア. 学生向け楽器貸与事業

世界的文化遺産である弦楽器名器を保全し次世代に継承するとともに、若手音楽家の育成、クラシック音楽の発展に貢献することを目的に、毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクール バイオリン部門と提携して、「サントリー芸術財団名器特別賞」を設定している。

5 年目となる本年度は、横浜みなとみらいホールにて実施された同コンクール、中学校の部（12 月 1 日）、高校の部（12 月 2 日）にて、選定委員が 2 名の受賞者および推奨ヴァイオリンを選定し、3 年間の無償貸与を実施。

【第 6 回サントリー芸術財団名器特別賞受賞者および貸与楽器】

大岩宝新 JACOB STAINER（1669 年製作）

首藤主来 TOMASO CARCASSI（1751 年製作）

イ. 演奏家向け楽器貸与事業

世界を舞台に活躍する若手日本人演奏家に 5 年間貸与する事業を平成 30 年度から開始し、現在以下の通り貸与中。

【貸与者および貸与楽器】

米元響子 ANTONIO STRADIVARI（1727 年製作 ヴァイオリン）

田原綾子 PAOLO ANTONIO TESTORE（1728 年製作 ヴィオラ）

3. その他の助成

ア. 活動助成

- （1）音楽文献目録委員会 音楽文献目録出版に対して
- （2）ミュージック・フロム・ジャパン 国際音楽祭開催に対して

イ. 運営助成

- （1）日本作曲家協議会
- （2）日本現代音楽協会
- （3）日本演奏連盟

サントリー芸術財団設立 50 周年記念事業（公益目的事業 1、5）

1.（公益目的事業 1）記念シンポジウム「日本の音楽界の 50 年とこれから」の開催

8 月 21 日（水）15:00 開演、サントリーホールブルーローズ

3 部構成で財団創設以前・以後の日本の音楽界の歩みを振り返るとともに今後の展望を討論した。

基調講演 1 「1969 年以前の日本の音楽界」渡辺裕氏

基調講演2 「1969年以降の日本の音楽界」片山杜秀氏

ラウンドテーブル「日本の音楽界の50年～受けて、創り手。繋ぎ手」スピーカー 白石美雪、
長木誠司、沼野雄司、野々村禎彦の5氏

2. (公益目的事業5) 記念出版「日本の作曲2010-2019」の制作

周年事業として10年毎に出版している「日本の作曲」の2010-2019年版を令和2年度に刊行するため制作準備を行なった。直近10年間の邦人作曲家の主要作品、作曲界の動向についてのレビューを中心とする内容。

以 上